

きぼう

令和8年4月30日(木)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年 学年便り 5月号

思いを成長につなげる

最高学年としてスタートを切り、3週間ほどが経過しました。日に日に木々も新緑に色づき、爽やかな風と共に初夏の訪れを感じさせます。

6年生の教室では、運動会に向かって応援団の組織づくりや学年種目の作戦会議、相棒との遠足に向けての計画立案など、行事についての話し合いが盛り上がっています。子どものスピーチや話し合いを聞いていると、「今までの6年生みたいに・・・」「去年の6年生がかっこよかったから・・・」というような「6年生へのあこがれ」が感じられる発言がたくさん見られます。まさに学年名「きぼう」に込められた「こうしたい」「こうなりたい」という思いをもって、より高い目標をめざして取り組んでいる姿です。今までの6年生がつくってきたものを受け継ぎたい、さらによりよいものを創り上げたい、そんな6年生の意気込みが感じられます。

1組の子どもが「2組、3組の応援がどんどん決まってる！私たちも何とかしないと！」と話していました。2組、3組から遅れを取りたくないという危機感から出た言葉だったのだと思いますが「他のクラスに負けない応援を作り上げたい！」という思いも込められているのではないかと思います。心の奥底には「この1年間が本当に最後の1年だから」という気持ちがあるのでしょうか。学級ごとに全力で運動会に取り組んでいます。1組では、どんなに話がまとまらなくても「大丈夫！わたしたちで考えるから！」と応援団がまとめています。2組では、休み時間のたびに「みんなやるぞ！」と、太鼓の音やエールの掛け声が聞こえてきます。3組では「応援の内容を家で考えてきたよ！」と応援の内容を、学級の仲間に説明しています。「これが子どもの手で作り上げる運動会なんだな」と、きぼうの子どもの姿を見て思うのです。もちろん、応援の動作や声の大きさなど、形にこだわって練習を重ねていくことも大切なことです。しかし、そこに「子どもの思い」がどれだけ込められているか、それが運動会の核となるものなんだと思います。応援だけでなく、学年種目の綱引きや3色対抗リレーに込める「思い」が6年生としての成長につなげるために必要です。時には、うまくいかずに悩んだり、友達とぶつかり合ったりすることもあるでしょう。苦しい時こそ友達とかかわり支え合うことを通して、より大きな「きぼう」をもって成長していったほしいと願っています。5月から運動会の練習が本格的に始まりますが、6年生の「思い」をどのように表現していくのか、練習に取り組む姿を楽しみにしています。

子どもは、運動会を通して「自らの内に伸びよう」と思い、日々挑戦をくり返していきます。うまくいかずに悩みむこともあるかもしれませんが、そんな時には、子どもの思いを信じて見守り、声を掛けながら、子どもの成長を支えていきたいと思っています。保護者の皆様、5月もどうぞよろしくお願いいたします。